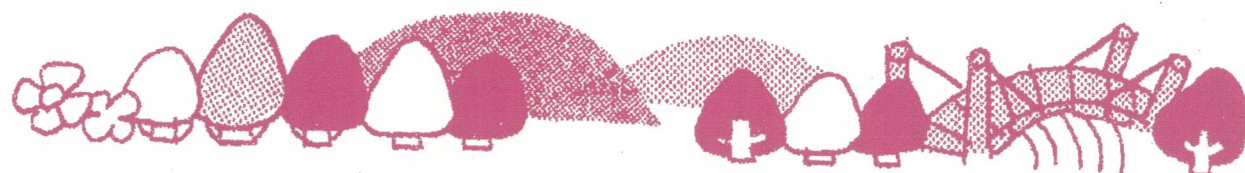
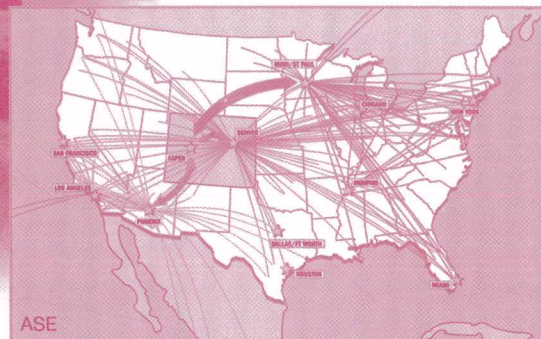


京都の歴史・水力発電の源をたずねて ～アスペンとの架け橋～



海外研修KYOのあけぼの会
2005年6月7日～13日
(第3回自主研修)



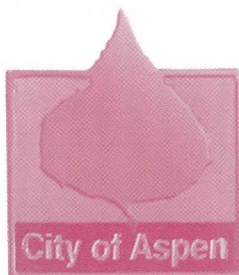
1. アスペンの地理的位置

この旅は、110余年の時空を超えて甦った感動感激の旅でした。

京都は日本で最初に水力発電を行い、市街電車を開通させた街です。1885年(明治18年)、京都の産業発展のために、琵琶湖から疏水を引く工事が始まりました。産業の動力源としての水利事業を視察するために、1888年(明治21年)に京都の田辺朔朗・高木文平がアメリカへ派遣されました。艱難辛苦の旅の末、米国コロラド州アスペンで開発されたばかりの水力発電の技術を学ぶ機会を得たのです。この二人の持ち帰った水力発電の技術が、京都蹴上発電所の誕生となり、さらにその電力を使って日本初の市街電車を開通させたのです。その歴史的事実を学び、田辺・高木両氏の足跡と水力発電の開発者デブロー氏との出会いを迎えるのが今回の旅の目的でした。

現在のアスペンは、冬はアメリカ第一のスキー場として、夏は文化的芸術的な催しで世界に名を轟かせています。

私たちが訪れた6月のアスペンは、満開のライラックが周辺の木々の緑に美しく映え、落ち着いた街並みと共に心の安らぎを与えてくれました。



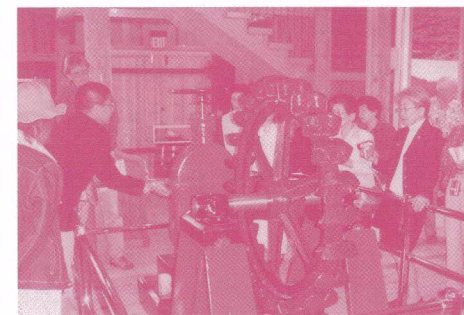
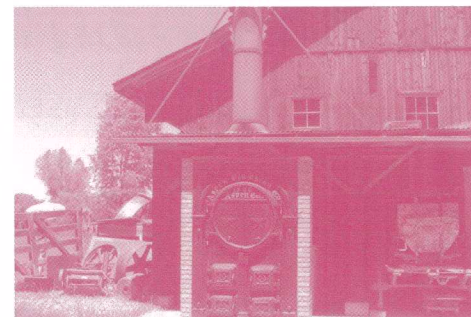
2. 水力発電博物館

以前には見られなかった資料館がありました。京都からの発信により、埋もれかけた歴史の発掘や京都との関係が見直され、調査・整理されて展示されていました。4000メートル級の山並みを背景に、豊かな自然環境の中に水力発電博物館は建っています。

1880年代からの水力発電所の建物や、後方の山から水を引き入れた29kmもの木造の用水路などのミニチュアの模型が当時を彷彿させるように展示され、落水に用いたペルトン式の水車も置かれています。銀鉱山の町として拓かれたアスペンは、採掘動力として火力から水力に切り替えたのです。

3. Aspen Art Museum

ここは旧水力発電所跡です。1888年12月田辺朔朗・高木文平がデブロー氏と出会った場所です。デブロー氏は遙遠京都から訪れた二人の日本人に、開発したばかりの技術の全てを教えてくださいました。アメリカに着いてから、探すべき物に出会えず失望落胆していた二人は、やっとアスペンで見つけたのでした。長い旅の終わりにめぐり遇ったこの出会いが日本最初の水力発電に繋がったのです。その記念すべき建物は、今Art Museumとして甦り、芸術文化を伝える場所となっています。



4. アスペン市長訪問と山田知事の親書手渡し

今回の訪問に際し、京都府の山田啓二知事の親書を預かり持参しました。市庁舎にヘレン・クランドル市長を表敬訪問し、親書を手渡しました。



5. 女性リーダーとの交流会

アスペン市では二代に亘って女性が市長です。この席にも現市長、前市長が出席され、市関係者のリーダーたちもすべて女性でした。今日の女性の社会進出の背景には、日米両国いずれにおいても女性の地位向上のための弛まぬ努力があることが分かりました。男女共同参画の社会を確立するには、共通する悩みや社会背景があることも話題となりました。また観光都市として、開発と抑制の問題に真剣に取り組んでいるという説明に感銘を受けました。忌憚のない質疑応答が活発に行われ意義深い交流会となりました。

